

< 51号企画 >



## TATSUOTO

シリーズ物でタイトルにしているように、「人間嫌い」なタツノオトシゴ  
もう少し掘り下げて考えてみました。人間の何が嫌いなのか？

今の世の中見ていると、「自分さえ良ければ・・・」とか  
「他の人の事まで考えている暇は無い！」という自己中心的な言動が目立ちます。  
『誰でもいいから殺してみたかった!』など、何かが狂ってきています。  
霊長類という存在は、動物の頂点に立つという意味ですが  
エベレストの頂上や北極などと同様、頂点の部分から崩れていくのです（^^；

特に「人間の欲」には際限がありません。

それに比べると、一般的に動物達はおりこうさんです。  
自然環境に配慮し、無闇な殺生はせず、自然界のバランスを考えています。  
自分達の為にだけという生き方をすれば、自らが滅ぶ事を知っています。  
其々が自分の役割を、誰に教わるでもなく生きているのです。

最初の「私の嫌いなもの→人間の欲」が答えです。（^^；  
二番目の「私の苦手なもの→人間の徳」とでもしておきましょう。  
こればかりは、自然体でも、努力しても身につきません。

えっ！面白みがないって？（ブラックが不足のようです）

しばし思案、・・・

「嫌いなもの→お金」、「苦手なもの→お金儲け」これでどうでしょうか（^^；  
～強がっているが縁の無いタツノオトシゴより～



## YUKA

納豆！誰がなんと言っても、納豆！だって、腐ってるんだよ（笑）  
 好きな人にはたまらんらしい。かくいうじんじんも、大好物です。  
 栄養価が優れていることも、知ってます。でも、でも一、美味しくないと  
 思う。冷静に考えて、美味しくはないと思う。  
 豆は好き、でもあの味は、苦手を乗り越えています。  
 初めて食べたのは、小学校4年生の時。  
 給食で出たんだけど、関西から西では当時まだ納豆は非常に珍しい食べ物  
 でした。なのでクラスのほぼ全員が初納豆。  
 でもって、担任は「給食を残すな！」という人だった。みんなが無理して  
 食べてる中で数人はもどしてしまいました。それを見ながら、私は牛乳で  
 なんとか胃の中に流し込んだ。5時間目6時間目、体調不良者続出。  
 私も下校時にひどい吐き気に襲われる。これが、私の初納豆体験。  
 帰宅後、母に今日納豆というものが出たすんごい不味かったと話すと  
 母「そりゃそうよ、あれ、腐ってるのよ」と。  
 はい、それ以降、私は納豆がダメになりました。梅干しやキムチを刻んで  
 混ぜてみたり、チーズを乗せて焼いてみたり、かき揚げにしたりと私  
 なりに努力はしたのですよ。でも、やっぱり、いろんなものと混ぜても  
 焼いても揚げても、納豆の味がします。そして、ふつーに豆食おうよ！  
 と思うのです。そして、私に「腐ってる」を刷り込んだ母は現在では  
 毎日納豆食べてます。



## TOMMY JR.

### ●動物

昔はゴキブリが苦手でした。でも、今はそれほどでもなくなりました。なんでだろう？  
 いまでも好きではないし、イヤなんだけど、昔ほどの生理的な不快感が弱まった気が  
 します。思うに、きっと環境のせいではないでしょうか。昔は家の中が汚かったの  
 で、ゴキブリに相応しい舞台になっていて、役者としてのゴキブリの凄みが増して  
 いたのだと思います。今は家も新しくなったので、ゴキブリがそんなに似合  
 わないので、凄みが出ないのではないかな。例えば、昔居たチンピラなんかは  
 暗い裏通りで凄みがあったけど、オフィス街に出てきてもあまり凄みがない  
 気がしますもんね。そう考えると、やはり役者にとって舞台は大事だと思  
 いますね。

### ●食物

食べ物に関しては、私は好き嫌いが無いのが自慢でした。小さい頃はピーマンがダメでしたし、ナスもどこが美味しいのかと思っていました。でも大人になってピーマンもナスも美味しいと思うようになり、「私は何も嫌いな食べ物はない！」と豪語していたのです。しかし、家内の田舎（長野）で出された「油なす」とかいう料理にノックアウトされました。ショックでした。「お、おそれいましたっ」と腰が砕けて、以来「嫌いな食べものはない」という看板は下げざるを得ず、いまだに家内に馬鹿にされています。

### ●人物

苦手なタイプの人、嫌いな人って、やはり何人かいます。どうして苦手なんだろう、どうして嫌いなんだろう？とずっと考えていて、あることに気付きました。それは、そういう人達とうまく接することができない自分が情けなくて嫌いだったのです。それが証拠に、ある接し方でうまく対処することができるようになると、その人がそんなに嫌いではなくなりましたから。

### ●事物

読売ジャイアンツが嫌いです。子供の頃は当然、巨人ファンで長嶋ファンでした。でも、中学の頃に野球から遠ざかり、高校時代にふと新聞で「巨人、7年連続日本一！」という見出しを見てから怒りがこみ上げてきてアンチ巨人になりました。今でも巨人は大嫌いです。カネにもものを言わせてスター選手を買い漁り、人気に奢って傍若無人な振る舞いをする、お前は一体何様だ！というジジイが牛耳っていてマスコミの論調まで支配しようとしている。いやあ、最低ですね。日本一醜い組織集団だと思います。この点に関しては CACCO さんと意見は同じでしょう。



## YUKO

### 苦手なもの

魚一式（なんじゃそりゃ・・・と思われるだろうが、魚の類が苦手。もちろん金魚など観るのは大丈夫、コッピーも飼ってるし・・・それゆえに、食べるのが苦手なのです）

鶏の皮、豚の耳、豚足（コラーゲンはサプリで補う）

虫一式（トンボが一番、カマキリやバッタが特に苦手だったが、最近庭にいるカマキリ相手にしゃべったりしているので少しは改善されているかも）

暑苦しい満員バスの隣に座った男の人の寝顔（おぞましい・・・）

## 嫌いなもの

お昼時間にいつも行くコーヒー店にたむろして、大声でしゃべりまくっている中年軍団  
(自分も中年と言うことを忘れて、嫌ってしまう)

腰掛のように、三時間だけ(9時から12時まで)働いて、でも文句ばかり言っている主婦軍団。(自分も主婦であることを忘れて、嫌ってしまう)

私の上司(女)・・・でも今日缶コーヒーをおごってくれた・・・そんな事で誘惑に負けるものか。



## 苦手なもの

医者：人には病院に行ったほうが良いよと言うけれど、自分の場合はよっぽどの後押しが無ければ行かない。怖いもの。

この歳になると病気の巣窟になっているし、「手術しましょう」と言われるのが断然怖い。まだお腹にメスが入ったことは無いんだよ。

刺身：今ではマグロや、海老、蟹、甲殻類、貝類の刺身は食べられるけど、はまちや鯖の刺身は今でも苦手。一切れ、二切れは食べるが、それから後はお皿をそーと向こうに出して置くと誰かが食べてくれる。ぜんぜん食べられないのが、鶏、牛の刺身だ。これにはまったく手を付けない。お鍋の中になんか入れちゃうよ。

毛筆：才能が無いなあ。筆は絵を描くためにあると思っている所為か、ちゃんとした筆の持ち方になっていない。第一、うさおは絵や文字を書くときに、右 23.4°ほど傾けて書く癖がある。英文のような書き方だ。だからデッサンなんかも、変に歪んで来るんだ。

## 嫌いなもの

蛇：先天的に長いものは嫌い。海釣りでアナゴを釣り上げた時には海蛇かと思ってあせりまくった。その後、海蛇には縞々があることを泳いでいるのを見て知った。

沖縄に行った時にお味噌汁の中に「おきのえらぶ」が輪切りになって入っており、汁を十分堪能した後に気付いたのでショックは大きかった。

お酒：体が受け付けない。学生の頃にこれから建設業に入っていくのに、これでは拙いと先輩、同輩が察に泊まりこませて特訓をしてくれた。ウィスキーをボトル半分くらい開けたが、夏なのに悪寒がし毛布に包まっていた。吐けない体質なので、より始末に困るらしい。これで同輩達も無理に酒を勧めなくなった。

建設会社に入った時も「俺の酒が飲めねえかっ！」と言う上司も居たが、頑として拒んだ。これが出世が出来なかった理由のひとつかなと今も思っているよ。

電話：仕事やプライベートで掛かってくる電話の長い奴は嫌いだ。用件だけを言ってさっさと切りたいのだが社交辞令が続く。うさおは酒席にも出て呑めないのに付きあって歌を歌い、踊っている。社交辞令なので早く終わんないかなっていつも思っている。女の子を口説くのに「僕、あなたのことが好きです。返事は？」って結論だけを聴いてさっさと帰っちゃいたいです。ん？

仕事：これが嫌いなんだな。特に時間をかけて、チマチマやる仕事が嫌い。でも手掛けると頭の中にイメージがあるので、それに到達しないと気がすまない。結果、厚い報告書が出来上がりぐったりだよ。

以上です。遅れちゃいましたね。いいか、相談役なんだから……。手心を加えて貰っても。



## KAZUKUN

'苦手なもの嫌いなもの'あまりにも多すぎてわかりません。今一番苦手なものは……。このところの暑さでしょうか。やや夏ばて気味です。早く涼しくならないかなあ。



## HIDEHIKO

この年になると、昔ほど好き嫌いがなくなったのですが、強いていえば、人間の中に好きになれないものがあります。特に、一緒にやろうと煽っておいて、土壇場で豹変したり、逃げ出したりする奴は嫌いな者です。

企業時代にもこのような小さなトラブルは何度か味わいましたが、一番厳しかったのは中国に交渉で出張しているときでした。青森ほどの緯度にある北京の冬は厳しく、毎日がグルーミーな気候で、東京と比較すると黙っていても気が滅入るのです。

当初十四、五名で交渉に入っていたメンバーは交渉が長引くにつれ、動揺を来すようになっていきました。まず、営業の者が日本からの呼び出しや病気を理由に一人去り、二人去りして現地駐在員だけになってしまいました。工場側のメンバーも大いに動揺し、そこに持ってきて、日本側から別のプロジェクトにどうしても必要だからといって帰国させる者が出てきました。後に、オフタイムに自室から日本に国際電話を入れて裏工作をしたという話も聞こえてきましたが……。

自分は交渉団の団長補佐役でしたので、他人はどうあろうと踏み留まざるを得ない立場にありました。数日で帰国する予定で日本を出てきたので、家庭にも問題が残されていたのですが、なすすべもありませんでした。支えになったのは、団長の K 支配人が契約締結まで現地でがんばる意思をいち早く明らかにしたことです。結局、自分と同様に残るしかない者は、各事業部代表となる僅か 5 人に絞られました。

それから約 2 ヶ月間を、月曜日から土曜日まで、朝 9 時から夕方 5 時まで、寒々とした国営工場の会議室で延々と団体交渉に臨んだのです。中国側のメンバーは毎日 30 名近くで、日本側のメンバー（商社の通訳を交えて約 7 名）の 4 倍で圧倒されました。

交渉は一条ごとに 3 日はかかるという、カタツムリ会議で、いつ終わるか分かりません。人は目標の見えない仕事ほど精神的ストレスが大きくなるものであるということを実感した毎日でした。持病が悪化して、日本から取り寄せた医薬を飲み続けて交渉に参加するサムライには頭が下がりました。

そんなとき、やまとたけるを思い出しました。九州の熊襲を征伐して都に帰国したやまとたけるは、天皇から今度は東へ征伐に行くように命じられます。そこで、伊勢神宮に行き、姉のやまとひめに「天皇は私に死ねというのだろうか」と嘆く場面があります。その後、やまとたけるは悲劇の結末を迎えるのですが、このボヤキを思い出したのです。この場合、天皇は会社のことです。周五郎の小説に、敵の城を攻略するために堀を泳いで渡るときに、敵に見つかって、とっさに底の大きな石にかじりつき、そのまま溺れ死んだサムライの話がありますが、まさに捨石にされたという気持ちが、日に日に大きくなりました。

交渉を成功させるか、病気になるかしか日本へ帰る方法がない状況に追い込まれると、だんだん精神が異常になってきます。僅かなことでいさかいをする場面が増えてきました。中国側にとっては、それは思う壺だったでしょう。

年寄り話は話が長くなります。結論を急ぎましょう。こうして、何とか北京の極寒を過ごして、契約に漕ぎ着けました。すると、日本に帰国していた連中がドヤドヤと戻ってきて、調印式の準備やら、宴会の準備やらを始めるのを見て、いやなやつと思いながら、自分にはこのような処し方は苦手だなと思ったものでした。調印式前の最後の日、残留した戦士たちで北京飯店の日本料理「魚国」で食事をとって、うさ晴らしをしたのを思い出しました。

このような交渉はその後も続きましたが、人を見分ける目が備わったかという否で、ずうっと裏切られ続けました。異常時に豹変するかどうかは、実際に異常になってみないと分からないことは、日常生活で多くの人に接していく上でむしろ幸いなのだと思います。



ビーズを納入して一ヶ月経つのに代金をまだ頂いておりません。

催促するのが苦手なんですわねー。

え？ DG はよく締め切りだと煽ってくるって？

……ま、たしかにい〜。